

会 議 名	第3回狭山市協働推進委員会
開 催 日 時	平成30年10月2日(火) 10時30分～11時30分
会 場	狭山市役所6階 602会議室
出 席 者	狭山市協働推進委員 8名(欠席2名)
議 題	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 議 題</p> <p>(1) 平成30年度提案型協働事業の進捗状況について</p> <p>(2) 来年度の協働事業について</p> <p>(3) 協働によるまちづくり条例の制定について</p> <p>(4) その他</p> <p>4. 閉 会</p>
協議概要	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>委員長欠席のため、副委員長が代理</p> <p>3. 議 題</p> <p>(1) 平成30年度提案型協働事業の進捗状況について</p> <p>事務局より平成30年度提案型協働事業の進捗状況について報告 (資料No. 1、資料No. 2、資料No. 3参照)</p> <p><委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型防災学習事業の避難所宿泊体験を見学した。こども達が多く、ゆるやかな雰囲気であったが、震災映像の鑑賞が始まった途端に、こども達も真剣に聞き入っていた。また、ロープワークやペットボトルランタン作りなど、普段できないことを体験することができていた。 ・3つの事業の見学をした。らーふてらこや事業の英語カフェについては、店のオープン時は参加者が少なく、仲間の方同士で固まっていて入りづらい雰囲気があった。また、ネイティブの方はおらず、高齢者の方が多かった。しかし、英語が話せない方でも楽しめている様子であった。参加者の

層の幅が広がると、もっと良いものになると思う。

体験型防災学習事業の避難所宿泊体験については、パーティション作りやロープワークなど、子ども達がなかなか体験できないことを体験できるよい機会だったと思う。

車椅子ビリヤード事業については、高齢な方が多かった。家にこもりがちな人が外に出るいい機会になっていると思う。また、コミュニティの場として気軽に参加できる雰囲気であった。

- 車椅子ビリヤード事業については、難しいとは思いますが、場所を元気プラザに関わらず、そのほかの場所でも実施していいと思う。

産後ケアネットワーク事業については、非常に良い事業内容だと思うが、本当に子育て支援が必要な人に情報が届いているのか。情報発信の方法について模索していかなければならない。

- 委員として、事業の雰囲気を伝えるため、まずは参加することが重要と改めて感じた。
- 参加することに加えていかに楽しめるか、そして、いかにその楽しさを他人に伝えられるかが重要である。(楽しめなければ人は集まらない。)
- ある市のホームページを見たところ、市民が作った観光案内のページがあった。市民目線を取り入れて作る方が、行政が単独で作るものより面白いものができると思った。(市民目線の感覚をとり入れている)観光パンフレット作成事業に期待をしている。

(2) 来年度の協働事業について(追加資料参照)

今年度においても、10月から12月にかけて、行政提案型協働事業のテーマを募集する予定である。今年度は4件の行政提案型協働事業を実施している。行政提案型協働事業として実施した方がよいと思われるものがあれば、ご教示いただきたい。

<委員からの意見>

- 協働によるまちづくり条例が制定されるため、例年通りではなく、もう一歩推進した形で実施してほしい。委員のみなさまからも、事業の案があればご提案いただきたい。

- 全体的に事業への参加者が少なくなった感じがする。犯罪被害者等支援事業の講演会もテーマ的に集まりにくい（デリケートな内容のため）と思うので、PRの方法について、考える必要がある。
- 参加者の多い少ないといった視点だけでなく、事業のどの部分に価値を見出していくかの視点も重要だと思う。

(3) 協働によるまちづくり条例の制定について

8月10日から9月10日の期間でパブリックコメントを実施したところ、1件の意見が提出された。意見としては、「協働によるまちづくり条例については、制定することが目的ではなく、如何に市民に普及するかということが重要である」という内容であった。それに対する市の考えを「実効性が伴ってこそ、条例の目的が達成されるものであり、この条例を実効性のあるものにするためには、これまで以上に市民や市の主体的な行動が求められることから、実際に行動するための仕組みやルールについて、市民とともに検討していく。」として公表する。

また、中村委員に協働のまちづくりに関する紙芝居「18歳の決意」を作成していただいた。1月以降、意見交換会の開催を予定しているが、その中でも紙芝居の実演を取り入れ、条例制定について普及していきたいと考えている。

～中村委員による紙芝居の実演～

<委員からの意見>

- 家族全員がきらきらとまちづくりに想いを持っているところがいい。紙芝居の方が伝わりやすい。
- 条例の内容について、文章で伝えるよりも、紙芝居を通じて伝える方が腑に落ちる。意見書の提出が1件であったが、この結果がよかったのか。悪かったのか。伝わっていない人（興味を持っていない人）にも伝えていく手法を勉強していかなければならない。

	<p>(4) その他</p> <p>次回の委員会は1月24日(木曜日)10時30分からを予定。</p> <p>4. 閉 会</p>
配 布 資 料	<p>第3回狭山市協働推進委員会 次第</p> <p>資料1 平成30年度提案型協働事業一覧</p> <p>資料2 平成30年度提案型協働事業実績報告書(6月~8月)</p> <p>資料3 平成30年度提案型協働事業実施予定(10月~11月)</p> <p>追加資料 犯罪被害者支援ミニセミナー</p> <p>追加資料 平成31年度行政提案型協働事業テーマの検討について</p> <p>追加資料 狭山市協働によるまちづくり条例の制定について</p>
事 務 局	<p>協働自治推進課長</p> <p>協働自治推進担当 主幹2名 主事 以上4名</p>